

研修コーナー

EXERCISE 106

〔子宮内膜症を取りまく諸問題〕

子宮内膜症の薬物治療, そのリスク, ベネフィット

Q 519 次の1から4までの記載のうち, 正しい組み合わせはどれか。

1. 内膜症は, 生殖年齢においては, 常に徐々に進行性の病態である
 2. 非色素性病変は, 色素性病変に比べて, 内膜症組織の活動性が低い
 3. 深部浸潤性内膜症は, 触診よりは, 開腹や腹腔鏡による観察により発見されやすい
 4. 骨盤内の癒着性病変は, 混在する内膜症病変により生成されたものばかりであるとはいえない
- a) 1のみ b) 1—3—4 c) 2—4 d) 1～4までのすべて
e) aからdまでのいずれでもない

Q 520 次の1から4までの記載のうち, 正しい組み合わせはどれか。

1. GnRHa 投与の最初の約1週間は, 性腺刺激ホルモンが上昇し, 内膜症は悪化の方向に向かう
 2. GnRHa 投与により内膜症組織は脱落膜化し, 退縮に向かう
 3. 6カ月のGnRHa 投与による骨量の減少率は腰椎で平均5%で, 多くは投与終了後も減少したままである
 4. GnRHa 投与後の再発率は, 治療前の重症度によらず, 5年で約半数である
- a) 1のみ b) 1—3—4 c) 2—4 d) 1～4までのすべて
e) aからdまでのいずれでもない

Q 521 次の1から4までの記載のうち, 正しい組み合わせはどれか。

1. 黄体ホルモン剤により, HDL コレステロールが減少し, LDL/HDL 比が上昇する
 2. ダナゾールにより, HDL コレステロールが減少し, LDL/HDL 比が上昇する
 3. 経口避妊薬を常用している婦人に内膜症が発症しにくいわけではない
 4. IUD 使用婦人には内膜症が発症しやすい
- a) 1のみ b) 1—3—4 c) 2—4 d) 1～4までのすべて
e) aからdまでのいずれでもない

Q 522 GnRHaについての1から4までの記載のうち, 正しい組み合わせはどれか。

1. 内膜症治療のためには, 血中エストラジオール値を閉経レベルの10pg/ml以下に保つことが必須である
 2. 投与中に性器出血を認めた場合には, 薬剤の増量, あるいは黄体ホルモンの投与で対処可能である
 3. 鼻腔噴霧剤のほうが, デポー注射剤よりも下垂体抑制効果が高い
 4. 投与中に, 黄体ホルモン, あるいは卵胞ホルモンの投与を加えることにより, 副作用の多くを解決することが可能である
- a) 1のみ b) 1—3—4 c) 2—4 d) 1～4までのすべて
e) aからdまでのいずれでもない

(解答は研修コーナーの最終頁にあります)

研修コーナー

EXERCISE 107

〔子宮内膜症を取りまく諸問題〕
子宮内膜症性不妊の取り扱い

Q 523 子宮内膜症と不妊に関するもので誤っているのはどれか。

- a) 機能性不妊の場合腹腔鏡検査で Re-AFS 分類でⅢ，Ⅳ期の子宮内膜症が見つかることがある
- b) 子宮内膜症症例のうちで不妊症を合併するのは60%以上である
- c) Re-AFS 分類でⅠ，Ⅱ期で腹腔内洗浄などをした場合6カ月から1年は子宮内膜症に対する追加処置はせずに待機して妊娠を期待する
- d) 子宮内膜症性不妊症が考えられた場合，腹腔鏡検査は必須である
- e) 体外受精・胚移植の場合，採卵で十分な数の卵子が得られれば子宮内膜症の有無で妊娠率に差はない

Q 524 卵巣チョコレート嚢胞に関して誤っているものはどれか。

- a) 小さい嚢胞の場合は不妊原因となりにくい
- b) Re-AFS 分類では重症度評価のうえで過大評価の傾向がある
- c) エタノール固定法よりも嚢胞の核出術の方が術後の妊娠成績がよい
- d) エタノール固定の場合6カ月以内に約50%が再発する
- e) ダナゾールやGnRHa投与が奏効する

Q 525 子宮内膜症が不妊原因になる理由について誤っているのはどれか。

- a) 強度の卵管卵巣周囲の癒着があるとき
- b) 黄体化非破裂卵胞を呈することがある
- c) 活性化マクロファージによる腹水中のサイトカインが卵の輸送障害や精子機能障害を起こす
- d) 高プロラクチン血症を合併することによる黄体機能不全を起こす
- e) 卵巣チョコレート嚢胞の存在による原始卵胞の消失

Q 526 子宮内膜症の薬物治療について正しいのはどれか。

- a) ダナゾールもGnRHaもともに癒着性を改善することで妊娠率が上昇する
- b) GnRHaの主たる作用機序は子宮内膜症組織への直接の退縮作用である
- c) GnRHaやダナゾール治療終了後通常2週間以内に月経が発来する
- d) Re-AFS 分類のⅢ，Ⅳ期の進行症例に対してダナゾールやGnRHa投与が第一選択である
- e) 長期薬物投与の場合，GnRHa治療にはadd-back療法，ダナゾールの低用量維持療法が推奨される

(解答は研修コーナーの最終頁にあります)

研修コーナー

EXERCISE 108

〔子宮内膜症を取りまく諸問題〕
子宮内膜症の発生病理

Q 527 子宮内膜症の発生について誤っているのはどれか。

1. 男性には発生しない
 2. Turner 症候群での発生はない
 3. 先天的腔閉鎖の女性に多い
 4. pure gonadal dysgenesis でもみられることがある
 5. 子宮の手術操作によって起こることがある
- a) 1—2 b) 1—5 c) 2—3 d) 3—4 e) 4—5

Q 528 子宮内膜症の発生について月経血の経卵管性転移説を支持するものはどれか。二つ選べ。

- a) 月経血の逆流は稀にしか起こらない
- b) 子宮發育不全の女性でも発生する
- c) 卵管の腹腔開口部付近に発生しやすい
- d) 月経血中の内膜細胞は剥脱期のため増殖能が低い
- e) 過多月経, 過長月経の人に多い

Q 529 脈管性転移説で説明しやすい内膜症病巣はどれか。

1. 肺
 2. リンパ節
 3. 臍
 4. 卵巢
 5. ダグラス窩腹膜
- a) 1—2—3 b) 1—2—5 c) 1—4—5
d) 2—3—4 e) 3—4—5

Q 530 化生によって子宮内膜症に分化すると考えられる組織はどれか。

1. 大腸粘膜
 2. 子宮内膜
 3. 腹膜中皮
 4. 卵巢上皮
 5. 腹壁皮膚
- a) 1—2 b) 1—5 c) 2—3 d) 3—4 e) 4—5

Q 531 正しいのはどれか。二つ選べ。

- a) 腹膜はミューラー管由来である
- b) 腹膜の内膜症病巣の近くでは組織学的に腹膜中皮の陥入という現象がみられる
- c) 腹膜中皮の陥入は子宮内膜癌の発生過程でもみられる
- d) 子宮内膜のないものにも子宮内膜症は発生する
- e) 化生説による内膜症の発生には月経血は全く関与しないと考えられる

(解答は研修コーナーの最終頁にあります)

研修コーナー

EXERCISE 109

〔子宮内膜症を取りまく諸問題〕

子宮内膜症と自己抗体

Q 532 子宮内膜症で検出されるという報告がない自己抗体はどれか。

- a) 抗甲状腺ホルモン抗体 b) 抗カルディオオリピン抗体
- c) 抗子宮内膜抗体 d) lupus anticoagulant
- e) 抗核抗体

Q 533 正しいのはどれか。

- a) 正常健康人でも自己抗体が検出される場合がある
- b) 自己抗体が検出される子宮内膜症は血栓症がみられる
- c) 子宮内膜症に合併する抗カルディオオリピン抗体は SLE 患者の抗カルディオオリピン抗体と全く同じ性格をもつ
- d) 子宮内膜症では子宮内膜に対する自己免疫反応が証明されている
- e) 子宮内膜のない Rokitansky 症候群では抗子宮内膜抗体は全く検出されない

Q 534 子宮内膜症で現在既に証明されているといえるものはどれか。

- a) 子宮内膜症は不妊症の主要原因であり、子宮内膜症があると自然妊娠率が著しく低下する
- b) 子宮内膜症では腹腔内のサイトカインが増加することが多い
- c) 子宮内膜症で検出される抗子宮内膜抗体は着床を阻害する
- d) 抗カルディオオリピン抗体の検出される子宮内膜症と SLE はいずれも不妊になりやすい
- e) 子宮内膜症を合併した不妊症に対する Danazol の治療効果は抗核抗体を低下させる為である

Q 535 正しいのはどれか。

- a) 自己抗体が検出された子宮内膜症は免疫抑制療法が望ましい
- b) 自己抗体が検出されたとしても、生体内で反応しているとはいえない
- c) 子宮内膜症は抗カルディオオリピン抗体のために習慣流産を起こすことが多い
- d) 自己抗体が検出されれば何らかの自己免疫疾患を合併していると考えられる
- e) 子宮内膜症にはリュウマチ因子がしばしばみられる

Q 536 子宮内膜症の自己抗体について報告されているものを選び。

- 1. 抗精子抗体が高率にみられる
 - 2. 子宮内膜の抽出物に対して反応する抗体がある
 - 3. 抗リン脂質抗体がみられる
 - 4. 抗核抗体がみられる
 - 5. SS-A 抗体がみられる
- a) 1—2—3 b) 1—2—5 c) 1—4—5
d) 2—3—4 e) 3—4—5